

平成 28 年度 第 3 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 28 年 4 月 28 日（木） 18 時 30 分開会
 場所 武蔵野市役所 412 会議室
 出席者 委員 15 名、事務局 4 名
 内容 新委員紹介
 環境市民会議について
 平成 28 年度環境市民会議スケジュール
 長期計画・環境基本計画に基づく環境施策の方向性について
 平成 28 年度環境政策課実施事業について
 視察報告・意見交換

新委員紹介

発言者	要旨
	(委員及び事務局の新任者の挨拶)

環境市民会議について

平成 28 年度環境市民会議スケジュール

発言者	要旨
事務局	(資料 1 「環境市民会議について」、資料 2 「28 年度スケジュール」説明)
委員長	<p>環境基本条例において本会議の役割は、「調査・審議」となっているが、それだけでなく、答申や提言を積極的に行い、質の高い施策の形成に貢献したいと思っている。</p> <p>調査する内容が 3 つ示されているが、その 1 つである第四期環境基本計画は、第 8 期環境市民会議でまとめたものである。この環境基本計画を受けて今期が始まっている。今後、環境基本計画に基づく年次報告などを審議し、その他非常に幅広い内容について多様な視点から調査審議に反映させていければと思う。</p> <p>スケジュールは大体 4 回くらいで、あまり間が空き過ぎないようにしたい。また、武蔵野市のいろいろな現場に触れることによって、市民目線や現場感覚を持った検討の場にしていきたい。今期は、環境部 5 課がもつ情報や取り組みなどを共有できるようにし、それぞれ縦割りでうまくつながらないということがないようなやり方に近づきたいと思っている。武蔵野市自体は横のつながりもあるが、それを市民目線でもう一度チェックし、幅広い環境の分野をつなげていくことを会議の役割の一つにしたいと考えている。</p>

委員	<p>武蔵野市は全国に秀でた政策の先端をいっているからこそ、「スマートシティ」が言われていると思うが、資料3-2の内容と当面のスケジュールを見ると、生物多様性のウェートが大きすぎるように思う。生物多様性については学者や子どもたちにとっては重要だと思うが、たとえば防災や交通の問題と比較して市民の関心がない。生物多様性がそれほど緊急の課題であるのか。また、環境基本計画を見ると保全にウェートが置かれているようだ。これが足りないからここを改善するという情報がどこかにないと現状維持することになってしまうので、保全に加えて改善の視点が必要ではないか。また、生物多様性がそれほど緊急の課題であるか。</p>
委員長	<p>保全というのはやや行政用語的なところがあるが、改善的なものも含む「保全」ではないかと思う。生物多様性は第四期環境基本計画のひとつの柱である。そのウェートについては会議のなかで今後検討していければと思うが、国の定めた2020年までの「生物多様性戦略計画」のリミットが迫っているという事情もある。生物多様性という言葉自体が難しく、市民としては緊急性の実感はないと思うが、その部分にとらわれず、武蔵野市らしいローカルな部分での生物多様性の取り組みを考えていくことが重要である。それがより水や緑にリンクしていくのではないか。</p>
委員	<p>生物多様性という言葉は緑と生き物のみのようにとらわれがちだが、人も関わっている。それがまちづくりにおける環境の視点として大事だと思う。住みたい街ナンバーワンの理由と1つとして、緑豊かな環境がいかに保たれているかというところも含まれている。緑を生き物だけでなく、そこにどう人間が関わっていくのかという中で、生物多様性を考えていった方がいいのではと思う。また、生物多様性は子どもだけでなく大人も知るべきである。大人が生物多様性とは何かを認識してもらうことで、次に守るべき子どもたちに伝わっていくと考えている。</p>
委員	<p>第8期環境市民会議の中で生物多様性という言葉だけ先行している部分があり、十分に論議がされていなかったため、言葉だけが先行するのではないという意味でこれが特化して取り上げられたのではないか。</p>
委員長	<p>生物多様性という言葉を狭く理解せず、より多くの側面を含んだ問題として考えていこうというあたりでよろしいか。</p>

委員	<p>時系列的な流れで説明をさせていただきたい。第四期環境基本計画が今年度からスタートしたが、その前の第三期環境基本計画では、大きく二つの指標を掲げており、一つは温室効果ガスの削減、もう一つは時代の流れもあり、生物多様性であった。</p> <p>今回の第四期基本計画ではより身近な目標を持った計画にしたいという考えから、地球温暖化防止のような大きな話から地産地消というようなわかりやすい目標へシフトしている。</p> <p>そのような中で、生物多様性については、第三期環境基本計画期間中の議論が足りていないという考えに至り、今年度の環境市民会議では生物多様性について議論をしていただく流れとなった。</p>
委員長	説明のあった経緯を念頭に置きながら今年度は進めていきたい。
委員	生物多様性について市民に伝えるためには、文字通りの生物多様性だけではなく、生物多様性をかみくだいて、その中で市民生活との関わりで大きいテーマは何であるかの議論ができるの良いのではないか。

長期計画・環境基本計画に基づく環境施策の方向性について

平成 28 年度環境政策課実施事業について

発言者	要旨
事務局	(資料 3 「長期計画・環境基本計画に基づく環境施策の方向性について」説明)
委員	環境施策は多岐にわたっていることがわかったが、そのなかで今期の委員会の位置づけを確認したい。最初に横断的に多岐にわたるものを調査・審議していくという話があり、その次にこの生物多様性ということピックアップしていくという話があったので、今年度については、生物多様性が特にテーマになるという認識でいいか。
委員	資料 3-2 でいうと、25 ページ施策の展開で、体系図になっている。この基本方針 6 点すべてについてご意見をいただきチェックをしてもらいながら、特に基本方針 4 についてご意見をいただき、今年度生物多様性に関する基本方針を策定していくことを 1 つのテーマとしたい。
委員長	基本方針は 1 から 6 まで示されており、どの項目も重要である。ただし、この会議においてすべて同じレベルでは取り扱う事はできないので、まずは積み残している生物多様性を中心に議論をしながら他のところにも目を向けていくような進め方をしたいと考えている。
委員	基本方針の策定が今年度の事業と掲げられているので、そこをめぐって議論を行うということは理解した。方針はいつまでに作ることを目指しているのか。
事務局	年度内（3月まで）の策定を目指している。その中でどういうテーマをどう進めていくかについては現在事務局で審議中なので今後決まり次第示していく。

委員長	環境施策に関する年次報告の最新版は？
委員	最新のものは26年度版になる。27年度版については現在データを集めており、冊子として出るのは9月くらいになる予定。

視察報告

発言者	要旨
事務局	(資料4「環境関連施設見学会」報告)
委員長	今回はスマートエネルギーの先端を見学できたが、次に機会があれば身近な武蔵野市の再生可能エネルギーの現状、動向なども見学したい。様々な再生可能エネルギーをはじめとするエネルギーの工夫が進んでいるかどうか、あるいは省エネで ZEH ハウスなどの転換がどこまで進んでいるかなど身近なところでのエネルギー的な関心を深めていければと思う。参加した委員の感想をうかがいたい。
委員	とても素晴らしく楽しい見学だったが、自身の身と置き換えるところまでできるのかというのが第一印象だった。環境を自分の身の周りから良くしていくのはやはりお金がかかり、大変であると感じ、もっと身近でできることはないかと考えた。また、次世代住宅の紹介もコンセプトなどは素晴らしいがもっとシンプルでも良い。複雑すぎて今の自分にとって使いこなすことは難しいと思った。若い人であればいいかもしれない。
委員長	次世代住宅は先端を示すのが一つの狙いであり、それを自身の生活で取り入れられる部分まで近づけていくことが目的の一つではないか。そういう意味では今回は最先端を見学させてもらった。

意見交換

発言者	要旨
委員	今回の話の中で今年度生物多様性を議論するということは理解できた。他方で市民として感じたのは、熊本の地震の直後でもあり、危機管理の視点から何かあったときにどうエネルギーを安定供給していくか、あるいは安定供給に向けてどう努力していくかという点である。この点についての市の取組み、方向性を教えてもらいながら、市民としてどのように参加すべきかを共有できればと思っている。関連する情報の提供もいただきたいし、他の活動にもつなげていきたい。 最後の視察報告の中で、環境政策の展開という部分で市の取組みとリンクして紹介されているが、地震があったことで日々の生活の中で誰しもが忘れていないはずだが、東日本大震災以降間違いなく地球全体でいろいろと危機的な状況もあり、そういう視点の中で何がプライオリティの高い議論か、あるいは何ができるのかということに少しでも関わると良いと思っている。

委員長	防災の部署とも協力して話を聞く機会をできるだけ作っていききたい。横の連携を意識し、勉強しながら、私達市民会議が取り扱う内容に取り込めることは取り込んでいききたいと思っている。
委員	施策の体系6にある「安全安心で快適なまちを目指します」という部分に生活環境という意味で何か取り込めれば良いと感じた。このようなことは防災関連の委員会でやっているだろうが、何かひとつ項目を挙げるなどして取り組むことが市民会議らしいのではないか。
委員長	物事はすべて関連しているが、より掘り下げて取り組みを進めているところの知見などを吸収したい。それがないと皆関わっているのに知らないのかということかたちになってしまうので、そのような機会をつくっていくことが横とのネットワークになるかと思う。そのような試みも取り組んでいきたい。
委員	二人の委員の発言のとおり、行政は固定的に考えるべきではない。このような危機に関しては我々もコメントすることに意義があり、商業や農業に関わる人、サラリーマンなど多様な人が納得するやり方を検討した方が良い。玉川の視察もある一つの大きなビジョンがあって、これはそういう意図だったのかという、武蔵野らしい環境の生物多様性、そしてそれはムーバスのようなオリジナルでユニークな切り口で進めていってほしい。いろいろな分野がバラバラにならず、横のつながりを意識してほしい。
委員長	4月1日の市報（第5期調整計画のダイジェスト版）を見て、農業なども環境との関わりがとても深いと感じた。この横の連携がとても大事である。バラバラということが一番怖いところであり、その点に芯を据え、核をつくりながら進めていきたい。
委員	玉川上水はご存じのように、江戸の水をまかなう目的で、当時の英知を結集し地形を見ながらゆるい勾配で水を43kmという区間で江戸まで送るために人工的につくった水路だが、水道ができてその役割を終え、水の流れもなくなった。しかし、後の清流が復活したのは武蔵野市民が様々な運動をし、広がっていったからである。今は下水の高度な処理をした水が流れており、それは武蔵野市民の活動の賜と考えている。武蔵野市と玉川上水はとても関係が深いので、そういうところも含めて皆様に今度案内をしていききたいと考えている。
委員長	玉川上水については、世界遺産、未来遺産にしようという活動など、多方面からの視点がある。